

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373700281
法人名	有限会社 ダイズ
事業所名	グループホーム だいず
訪問調査日	平成20年10月30日
評価確定日	平成20年12月2日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2373700281
法人名	有限会社 ダイズ
事業所名	グループホーム だいず
所在地	一宮市開明字北葎野29番地2 (電話) 0586-64-0008

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年12月2日

【情報提供票より】(平成20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年6月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	27 人	常勤 13人, 非常勤 14人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年10月10日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 82歳	最低	60歳	最高	94歳
協力医療機関名	井上内科クリニック・三條歯科クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはのどかな田園地帯にあり、外観は一見大きな民家を思わせる2階建ての建物である。入居者が健康で(まめに)暮らせるようにとの願いをこめて「だいず」とホーム名になった。安全と木のぬくもりを感じてもらいたいとの思いから、ホーム内では入居者、職員、訪問者など全員上履きをはかず、夏は素足で過ごしている。そのため、清潔保持に力を入れており掃除が行き届いている。誕生会や行事の時には、入居者のエレクトーン伴奏で歌を歌い、楽しい時を過ごしている。「利用者に安らぎと希望を与え、地域に密着した生活を維持し、ケアを通して共感できることを追及し、相互信頼の確立を目指します」を理念に、大家族の中で愛と向上心もち、寄り添いながら相互信頼を築いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価課題について運営者、管理者、計画作成担当で協議し、職員に説明を行なった。主な改善課題は今までの理念の中に「地域に密着した生活を維持し」の言葉を盛り込みより明確にした。また、災害時の備蓄品をホーム外からホーム内に置くよう改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は大変な作業だが、自分たちでは気づかないことを気づかせてくれるので、大切なことであり、振り返りの機会として職員にとっても良いことと捉え、全職員が取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 入居者、家族、地域代表、市職員、運営者、管理者、計画作成担当の参加のもと、2カ月に1回開催している。会議では事業所の状況や活動、外部評価の結果などを報告し、メンバーからは意見や助言など得て、双方向的な会議になっている。全家族に案内状と議事録を送付している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からは運営推進会議で意見や要望を出してもらったり、面会時に職員からコミュニケーションを図り、話を聞くように努めている。出された意見など対応できることは直に行ない、サービスの向上に努めている。苦情相談窓口などについては入居時に説明を行なっている。また、玄関に意見箱を設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、運動会やお祭りに参加し地域の方と交流している。また、近隣の方から自宅から採れた花や野菜など届けてくれることもある。散歩時には挨拶を心がけ、災害時など何かあったら協力してもらおうようお願いしている。小学生の職場体験の受入れ、いろいろなボランティアの訪問があり、入居者の楽しみになっている。今後、5と3のつく日にはゴミ拾いをしながら散歩することを予定している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつも温かい笑顔と愛情で、決して叱らず制止せず、今できる事をしていただく」を基本に職員は共に生活する中で、入居者の立場や気持ちなどに共感し、寄り添う心を持ってケアの提供に努めている。また、地域の中での関わりを大切に入居者、家族、地域からの相互信頼が得られるよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関入口や、ホーム内の目に付きやすい場所（居間、廊下、スタッフルームなど）に掲示し、常に目で見確認できるようにしている。職員は傾聴を心がけ、何か訴えがある時にはその人の気持ちになって共感し、言われたことに対しては必ず直に答え“後だね”と言わないよう、理念を念頭に支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の運動会やお祭りに参加して、積極的に地域の方と交流を図っている。散歩の時は必ず挨拶を行ない、顔見知りになった近隣の方が自宅で採れた花や野菜などを届けてくれることがある。小学生の職場体験の受け入れやいぶき太鼓のボランティアで子どもたちが来てくれ、一緒に太鼓をたたいて子どもとの触れ合いを楽しんでいる。今後、5と3のつく日にはゴミ拾いをしながら散歩することを予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について管理者は大変な作業だが、自分達では気づかないことを気づかせてくれ、振り返りの機会として職員にとっても良いことと捉え、意義やねらいなど書いてある紙を一緒に配布し、全職員が取り組んだ。前回の評価課題において、理念に「地域に密着した生活を維持し」を付け加え、災害時の備蓄品もホーム内に置くよう改善した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2カ月に1度入居者、家族、地域代表、市職員、代表取締役、管理者、計画作成担当者の参加で開催している。全家族に案内状を出し、3～6人の家族が参加している。会議では入居者の様子（散歩、入浴、外出、面会などの回数）や活動状況（勉強会、研修会、行事など）、外部評価の結果など報告し、メンバーから意見や助言を受け、サービスの向上に努めている。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の職員が運営推進会議のメンバーであるので、開催の案内状やホームの行事への招待状を持参した時に、相談や情報収集を行ない連携している。最近、成年後見人のことで相談に行き、アドバイスを受け解決することができた。市町村から派遣される介護相談員の訪問があり、入居者、家族、事業所の相談にのる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホーム便りは発行していないが、毎月請求書と一緒に各入居者の写真と生活の状況を計画作成担当者がコメントを書き、送付している。家族の面会時でも日頃の様子や状況を職員は説明している。緊急の場合や何かあった時は、その都度電話で報告を行なっている。金銭管理についてはお小遣いノートに記載し、面会時に家族に確認をお願いしている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に意見箱を設置し、入居時に苦情相談窓口について説明を行っている。家族会はないが家族参加の運営推進会議の時や、面会時に話や相談などしやすいように、職員はコミュニケーションを図っている。出された意見、要望などは会議で話し合い、対応できることは直に行ない、サービスの向上に努めている。家族アンケートにも「話を聞いてくれる」と高い評価を得ている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	運営者や管理者は現場で働く職員の意見や要望をできる限り聞き入れ、働きやすい職場づくりに努めている。職員が離職する時は家族には伝えていないが、入居者には状態を考慮しながら説明している。新入職員は1カ月間ベテラン職員に付き添い、入居者に不安やダメージを与えないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で2~3カ月に1回、その時のニーズに合ったことや、直面している問題を取り上げ、勉強会を行なっている。外部研修は行ける職員が交代で参加し、全体会で発表を行ない情報を共有している。日頃のケア(トイレ、入浴介助など)の中で、その人に合ったやり方を職員同士教え合いながら、お互いにスキルアップを図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会や地域のいろいろな事業者連絡会に加入し、交流を図り情報交換を行ったり、研修会に参加してサービスの質の向上に繋げている。今後は相互訪問を行ないたいと考えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の後、面会して本人や家族から生活歴や身体状況などアセスメントを行なう。また、ホーム内を見学してもらい、入居者とお茶や食事を一緒に食べたりして、少しでも馴染んでもらえるよう工夫している。希望があれば体験入居ができる。入居して不安になった時は、話をして気分転換を図ったり、家族と電話で話をするなど、安心して生活できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備、食器拭き、掃除、洗濯物干しやたたみなど、できることは職員と一緒にしない、共に支え合う関係を築けるよう支援している。「ご苦労様。ありがとう」など入居者から労わりの心や感謝の気持ちを持つことを、改めて教えてもらうことがある。大家族の中で職員は生活をする者として、入居者に寄り添うことを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で職員は入居者とコミュニケーションを取るよう心がけている。入浴や散歩などマンツーマンになる時に、一人ひとりの希望や意向などを聞き取り把握に努めている。把握が困難な方は身振り、手振りなど行動をよく観察し、表情から汲み取るなど五感で感じ取るよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に本人や家族の意向を聞き取り、日々の様子から情報を収集して介護計画を作成している。計画作成担当者は日中、夜間、外出時と状況により精神的ストレスや言動に影響があるかどうか細かい情報を職員から聞き取り介護計画を作成している。職員は新しい気づきやアイデアで入居者の思いを計画作成担当者に伝へ反映した介護計画になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3カ月に1度見直しを行っている。本人、家族の意向や状況に変化が生じた時は、その都度計画の見直しをしている。職員間での情報共有は申し送りノートや口頭で行っている。新たな計画は家族の面会時に説明をして同意を得たり、面会に来られない家族には先に電話連絡をすることもある。</p>		<p>職員から日頃の様子や新しい情報、アイデアなど聴取し新たな計画に意見を取り入れているが、定期的にお互いの意見やアイデアについて、いろいろな立場から意見交換ができる会議など「場」を持ち、話し合われることを期待したい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、希望に応じて受診、外出の支援をしている。銭湯、美容院、買い物、散歩など生活習慣に添った継続かつ安心できる生活の支援をしている。以前に老人会から話の依頼を受けた。今後は何でも相談やショートステイもできるよう検討していきたいと考えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人にとって適切な医療が受けられるよう家族に代わって受診の支援をしている。提携医と24時間対応が可能な体制をとっておりいつでも相談できる。内科医の訪問診療が月に2回あり歯科受診は必要に応じて、また、眼科、耳鼻咽喉科などへは本人、家族の状況により希望する医療機関に受診の支援をしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に本人、家族から意向を聴取して必要に応じて話し合っている。定期的に話し合っ確認したり、ホームとしてできること、できないことも含めて本人、家族、関係医療機関と連携をとり、ホームの方針を具体化する必要があると管理者は考えている。</p>		<p>重度化してくる本人、家族の心情は計り知れないものがあると考え。安心した生活を送れるように重度化や終末期の意思確認を定期的に行い明文化することや、支えるチーム全員で方針を話し合い共有できる機会に期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>幼稚な言葉かけは本人、家族の誇りを損ねることを十分に指導して理解してもらっている。大きな声で話さないと聞こえない入居者には行動で理解してもらるように工夫したり、プライバシーを損ねないよう職員の立ち位置に配慮している。個人情報の漏洩防止には職員の認識が高く記録、情報交換の場所に配慮しながら見守りを実施している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、入居者の希望や本人のペースを大切に支援している。俳句が趣味で題材を見つけ、雨降りでもほぼ毎日散歩に行く方、夜の9時に毎日入浴する方など、できるだけ個別性のある支援を行っている。レクリエーションや行事など参加する機会があり、声かけはするが一人ひとりの気持ちを尊重している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から調理、片付けまでを楽しむ自由参加を支援している。得意分野で豆もやし処理、食器洗い、食器拭きなど、今日の出番が楽しみとなっている。好き嫌いがあっても好きなもののお代わりができる。訪問時に無理やり食べる強制はなく優しい言葉かけで、本人の気持ちを大切に支援されていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月～土曜日の入浴日で時間は個々の希望に添って対応している。入浴剤を使用して四季を感じたり、自分の時間を満喫、職員とマンツーマンの時間も楽しみにしている。生活習慣を大切に夜の入浴も支援している。体調によっては清拭や手、足浴で支援、拒否があっても時間差や職員、言葉かけを変えて「気持ちよく入る」ことができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活で自信と楽しみを大切にしている。掃除、洗濯、調理など手順ごとで役割を分け合い『やりたい』意欲を損なわないよう工夫している。楽しみごと、気晴らしの支援は場所、時間、材料等の環境と入居者間、ボランティア、職員などのマンパワーで持てる力を発揮している。静かに俳句作り、エレクトーンで奏でる音に歌を重ねる、色紙細工、習字、塗り絵と芸術を堪能、時には皆さんでおはぎやいなり寿司を作る、食べる、できるの三拍子で過ごすこともある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、体調に配慮しながら毎日散歩の外出を支援している。希望に添って傘をさして雨天の散歩を楽しむことも支援している。敷地内の畑で季節の花や野菜を育てる、近所の喫茶店で一息、銭湯で汗を流す、スーパーで買い物、四季折々のドライブ、1～2年に一度の温泉旅行など戸外に一步出ることや地域社会との繋がりを大切に思い通りの希望を取り入れた支援を継続している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけていない。入居者、家族、近所の方など自由に出入りできる。防犯面から20時～翌7時まで玄関の施錠をしているが、面会は24時間可能である。居室の窓は入居者ご本人と職員で相談しながら換気をしたり施錠したり臨機応変に支援している。ベランダ、非常口などは職員と共に出入りしてリスク回避の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災報知機、消火器、避難階段の点検塗装、エレベーター、浄化槽などの設備点検を年3～4回設備会社で実施している。避難訓練は年2回実施している。消防署から防災についてのビデオが提供され見ながら指導を受けている。災害時の備蓄品はお茶、クッキー等の食料を1週間分事務所に保管されている。救急救命の講習は順次受けており必要性の意識を高く持っている。今後は夜間想定避難訓練を取り入れたいと考えている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者の声を取り入れ好みや旬の食材で献立を職員が1週間ごとに立てており、栄養バランスは知り合いの栄養士からアドバイスを受けている。食事制限の方はなくその人その人の適量を見極め盛り付けているが、お代わりは自由である。1日1,000～1,500mlの水分摂取を目安にしている。好みや生活習慣に対応できる飲み物を準備し、決められた時だけでなく希望や体調面からも支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>掃除の行き届いた玄関を入るとホール、居室の大きな窓はブラインドで太陽光を遮断できるようになっている。共用空間に手すりが設置され使いやすさと安全面に配慮されている。幾つかのソファやテーブルで居場所の工夫が可能である。ホールの中ほどにフローリングと一体の畳スペースが設けられている。白い壁には切り紙や折り紙、習字の作品ですっきりと飾ってある。テレビの横には手作り日めくりで日付と曜日の確認をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空気清浄の効果がある観葉植物が各部屋に準備されている。使い慣れた机、椅子、置き時計、鏡などそれぞれに持ち込まれている。パイプハンガーや座椅子、掃除用品もあり生活様式で本人らしい居室がある。ブラインドの苦手な方にはカーテンが使用されている。エアコンと窓の活用で換気や室温管理ができる。四季折々に居心地よく過ごせる居室となっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。